

やめよ！徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信

No. 9 ('97. 3. 28)

事務局 ☎ 0584(78)4119

大垣市本町2-27 FAX 0584(82)4119

徳山村廃村から10年

10年前の1987年3月27日、徳山村は閉村式を執り行いました。縄文時代から絶えることなく人が住み続けてきた村から住民が追われ、人為的に歴史が中断させられたのです。大きな建設資材（ロックフィルだから山を崩した土石です）置場が造成されて、かつて暮らした場所が見る影もなくなった、と嘆く人もいます。それでも広大に残る山林に、イヌワシ・クマタカなど、緊急に保護しなければならない貴重な生物が生きています。

村を離れたお年寄りが、これまでに150人以上亡くなっているそうです。慰霊祭をやるとうい話があるとききました。村の人々にとってこの10年は、いやダム問題に揺れた40年は…、と考えると、あらためて胸が痛みます。

水没地域の共有林補償交渉はまだ妥結していません。ここ数年交渉にも現れなかった公団は、審議委員会が終わった直後から、懸命に走り回っているそうです。「わしらは、ダムを受け入れて補償金を貰い、村を出て来たのだから、今さらダム反対とは言いにくい。でも」とある人は言います「前から村人が要求している残存山林のことは一言も触れずに、とりあえず水没地の分だけハンコを押せ、と言ったって、そう簡単にはなあ。わしは皆に言っておる、公団は欲しい所を手に入れてしまえば、後のことなど考えてくれるわけがない、と。まあ、交渉がまとまるにはまだ大分かかるわな。」

私たち下流域住民の安全や生態系保全のためにも、徳山に残る山林をどうするのか、は本当に重要な問題です。水源地の山と森と川は、誰がどうやって守るのか、人は、お金は、システムは？これはどの河川にもかかわる課題だと思います。皆さんの知恵と力を寄せて下さい。

「徳山ダム建設中止を求める会」の

会員になって下さい

「徳山ダム建設中止を求める会」を会員制の団体にしていく「会則」を作りました。

会議や組織(?)体制等は、これまでと特に変わりません。正直に言って、会員に会費をお願いして、通信費などを確保したいという意味合いが中心です。皆様に「会員」になっていただきたくお願い申し上げます。これまでは諸費用のすべてを皆様からのカンパで賄ってきました。会員-会費制を採っても、収支は厳しいと思います。これからも、どうぞ財政的なご支援もよろしくお願いいたします。

なお、4月12日(土)に事務局において、臨時「総会」と「運営委員会」を兼ねた会議を行い、とりあえず役員人事を決める予定です。 <会則等は最終ページに>

2 / 16 (日) 建設省との対話 (第2回) 報告

建設省中部地建と水源公団中部支社から前回と同じ5人の担当者が来場

A 審議委員会とは何だったか

事業者側は「審議委員会の意見のあとも、質問や疑問があれば、誰に対してもできるだけ丁寧に説明したい」と言うが、実際はどうか？

B 揖斐川の治水計画の疑問点

事業者側は嶋津さんの指摘に対して分厚いレポートを出して必死の反論。でもかえって、建設省の治水計画の根拠全般を自ら否定するようなことになってしまっている。

C 大型猛禽類の保護について

「工事を進めながらの調査」で調査になるのか？「ワシタカ類研究会（外部の専門家）に相談する」等を前面に出すことで、責任転嫁も感じられる。

< 2 / 16 の資料と抄録が必要な方は事務局にご請求下さい。 >

中部地建は「対話第3回」を拒否するのか

上記の“第2回”の内容を踏まえて、嶋津暉之・遠藤保男両氏を迎えての「第3回」を6月8日に設定した。しかし中部地建は「建設省中部地建・水資公団中部支社として、住民に理解を得るための“集い”を各地で行う。この“集い”に参加する形にしてほしい」と言って来た。「質問や疑問には～できるだけ丁寧に説明する」ということの中身は「建設事業の広報活動」か。これまで2回の「対話（事業者が市民の前に出てきて対話を行う）」も、各地の運動を通じて、ようやく市民が勝ち取ってきたものである。これを後退させる動きを許すことはできない。私たちは重ねて「第3回」を申し入れて返事を待っている。

矢作川河口堰は本体着工を凍結

3月26日、矢作川河口堰事業審議委員会は「追加アセスが必要。その終了まで本体工事着工凍結」の意見を出し、それを受けて中部地建は1～2年かけてアセスを行うとした。アセス終了まで審議会は休会となる。

— お知らせ —

☆4 / 8 (火) シンポジウム「河川法改正をめぐって」(問合せ先: 水源連) *

13時30分～17時30分 衆議院第2議員会館第1会議室

(*「河川法改正」のシンポジウムを中部地方でも開催できるよう考えています。)

☆4 / 19 (土) 映画とトークの集い「とり戻せふるさと わが山と川」

13時30分～17時30分 岐阜市文化センター小劇場 ¥1500

映画: 「越後奥三面 第2部」 トーク: 増山たづ子、佐高信、天野礼子

©大牧富士男著「徳山ダム離村記」1400円 事務局で複数部を入手しました。お知らせ下されば、お送りします。

大垣市長に公開質問状

「徳山ダムが完成したら、西濃地区1市13町は今の地下水源を放棄し、126億円を負担して徳山ダムの新規利水（＝揖斐川の表流水）を上水道の水源にする」。つまり「高くて、まずくて、危険な水」が押し付けられることだけが決まっています。けれど、水道料金がどうなるのか、水の安全性はどうか、何一つ市民に知らされていません。どうやら市長自身もよく分かっていないようなのです。首長も議会も「国や県の決めたことは、疑問をさしはさまずに受け入れる方が身のため」と信じてやまない“地方自治”が、住民無視の公共事業をはびこらせている一因のようです。

水源地の活性化ということ

3月20日の朝日新聞の1面に右のような見出しが踊り、地方版には「大垣市が藤橋村の“道の駅”に八千万円出す」ことが報じられました。水源地は私たち都市住

民にとって大切な場所です。だからこそ、私たちはダムのようなものを造ってほしくない、山と森を保全・再生したいと願っています。小倉・大垣市長は「ダムが大垣市にとって計り知れない恩恵をもたらすから」金を出すと言います。私たちは

「ダムは川と流域とその住民に計り知れないダメージを与えるから、“ダム”にまつわる補助金やら協力金に頼らなくて済むような水源地の自立と活性化を」と言います。

昨年11月の集会で、私たちは「ダムを作らない暮らしを」山村を犠牲にして資源を大量消費する暮らしを改め、山村が“ダム建設”に頼るような地域政策を改めよう、と宣言しました。そして今、ダム推進派も下流都市住民の責任を言い始めました。「ダムを造る・造らない」に止まらない、社会構造全体の問題を視野に入れなければ、ダム問題も本質的には解決しないことを、鮮明に示しています。

徳山ダムの影響は？
小倉大垣市長に
公開質問状提出
建設中止を求める会
「徳山ダム建設中止を求
める会」の上田武夫代表
ら四人は十一日、大垣市
役所を訪れ、ダム建設の影
響についての公開質問状を
小倉満市長あてに提出し
た。

同会は回答期限を市長選
告示（四月六日）前、とし
ている。
質問状は▽徳山ダム建設
により、市が水道水を引き
受けることで、水道料金は
どうなるのか▽揖斐川上流
部のごみ焼却場による水質
汚染の影響は▽市長が挙げ
ている「表流水への水源転
換への取り組みの必要」
（地盤沈下、地下水汚染、

地殻変動による地下水の枯
渇）に対する疑問などが
柱になっている。
また、小倉市長が「ソフ
トピアジャパンを中心とす
るマルチメディア関連産業
を育成するために水がい
る」と主張していることに
対し、「マルチメディア産
業は大量の工業水が必要と
はしないのでは」と反論し
ている。

徳山ダムめぐる水源地活性化

協力金名目で 123億円要求

藤橋村

水資源開発公団などに

村予算の6倍相当

大垣市が800万円

村長「理由あるようでない」

「徳山ダム建設中止を求める会」会則

[名称]

- 第1条 (1) 本会は「徳山ダム建設中止を求める会」と称する。
(2) 事務局は岐阜県大垣市本町2-27 近藤宅に置く。

[目的]

第2条 本会の目的と活動を次のように定める。

- (1) 徳山ダム建設計画を中止させ、旧徳山村の山林の保全と再生を図る。
(2) 上記の目的を達成するため、関係諸機関に働きかけるとともに、広く市民に訴える活動を行う。

[会員・会費]

- 第3条 (1) 本会の趣旨に賛同し、所定の会費を納める人を会委員とする。
(2) 会費は当面、年額1口2000円とする。

[役員]

第4条 本会は以下の役員を置き、総会で選出する。

代表 1名、顧問 若干名、事務局長 1名、事務局 若干名、会計監査 1名

[会議]

第5条 本会の会議は次の通りとする。

- (1) 総会 総会は全会員で構成し、年1回または必要に応じて事務局が招集する。
(2) 運営委員会 運営委員会は、出席可能な役員・会員で構成し、月1回または必要に応じて事務局が招集する。
(3) 事務局会議 代表・事務局長及び事務局で構成する。

[会計]

- 第6条 (1) 本会の会計は、会費、寄付金および各種事業の収益金をもって充てる。
(2) 本会の会計年度は4月1日から翌年3月31日までとする。

[改正]

第7条 本会則の改正は総会出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。ただし、運営委員会が必要と認るとき、次の総会までの暫定的措置として、「会則改正案」をもって本会を運営することを妨げない。この場合は速やかに総会を開いて承認を得ることを要件とする。

会計報告

96/12/14 (前回会計報告) ~ 97/3/27 (No.9発送を250通として)

収入	¥25030	支出	¥112840
現金によるカンパ	15030	郵送費	83480
振込によるカンパ	10000	封筒代	7210
銀行利息	16	会場費(2/16)	22150
97年3月末残高	¥58338	(96年12月14日残高	¥146132)

[現金=¥8957, 郵便局=¥24350, 銀行=¥25031]

1997年度の会費をよろしく願いたします。団体にはできるだけ複数口をお願いしたいと存じます。郵便振替00800-7-31632 徳山ダム建設中止を求める会

☆ 4 / 1 2 (土) 「徳山ダム建設中止を求める会」運営委員会

13時~ 当会事務局

やめよ！徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信

号 外 (97. 4. 12)

事務局 電話 0584(78)4119

大垣市本町2-27 FAX 0584(82)4119

大垣市長への公開質問状に返事なし

「徳山ダムが完成したら、西濃地区1市13町は今の地下水源を放棄し、126億円を負担して徳山ダムの水（＝揖斐川の表流水）を上水道の水源にする」。つまり「高くて、まずくて、危険な水」が押し付けられます。けれど、水道料金がどうなるのか、水の安全性はどうか、何一つ市民に知らされていません。私たちの質問に答えないところをみても、どうやら小倉市長自身もよく分かっていないようです。

首長も地方議会も「国や県の決めたことは、黙って受け入れる方が身のため」と信じて何一つ知ろうともしません。これでは、地方自治は掛け声だけに終わり、住民無視のムダな公共事業をはびこります。

3月12日 中日新聞→

徳山ダムの影響は？
小倉大垣市長に 3/12 中
公開質問状提出
建設中止を求める会
「徳山ダム建設中止を求める会」の上田武夫代表ら四人は十一日、大垣市役所を訪れ、ダム建設の影響についての公開質問状を小倉大垣市長あてに提出した。

同会は回答期限を市長選告示（四月六日）前、としている。
質問状は▽徳山ダム建設により、市が水道水を引き受けることで、水道料金はどうなるのか▽揖斐川上流部のごみ焼却場による水質汚染の影響は▽市長が挙げている「表流水への水源転換への取り組みの必要」（地盤沈下、地下水汚染、

地殻変動による地下水の枯渇）に対する疑問などが柱になっている。
また、小倉市長が「ソフトピアジャパンを中心とするマルチメディア関連産業を育成するためには水がいる」と主張していることに対し、「マルチメディア産業は大量の工業水が必要としないのでは」と反論している。

子供達の未来を潰す

徳山ダムは要らない

ダムでは揖斐川の安全は守れない
未来に緑の森と豊かな生態系を残そう
大垣のおいしい水を守ろう

建設費用は？水道水は？自然環境は？ お金のかかった宣伝パンフレットは 都合の悪いことを押し隠している



徳山ダムでは揖斐川の水を
治めることはできない
建設省も認めています



新規利水の需要はあり
ません。費用は住民に
ツケ回されます

ダムのせいで「正常な機
能」が失われるのです。

開発費が高すぎて中部電力も二の足



自然は子孫からの借り物、私達は徳山に残る
山林を大切にしたいと思います

徳山ダム建設中止を求める会

事務局：大垣市本町2-27 ☎78-4119

市民はもっと知る権利があります

税金の無駄遣いはもうやめさせよう

岐阜県の工業用水の回収率は他県の半分以下。県は、それを改善しようとはせず「無駄遣い・垂れ流し」を奨励しながら、「新しい水資源開発が必要だ」と言っ
て徳山ダムを作ろうとしています。しかし、企業はコストダウンに努め、高い工業用水を買うことを極力減らそうとするでしょう。使わない水の「開発費」はすべて県民の負担となります。

一度壊した自然は戻らない

徳山ダムの建設予定地は、日本でも有数のイヌワシ・クマタカの生息地です。人間がこの先も健康に生きていくために、生態系を保全すること、絶滅寸前の大型猛禽類を守ることは、大変重要です。

3月20日の朝日新聞の1面に右のような見出しが踊り、地方版には「大垣市が藤橋村の“道の駅”に八千万円出す」ことが報じられました。水源地は私たち都市住民にとって大切な場所です。水源地の活性化は重要なことです。

だからこそ、私たちはダムのようなものを造ってほしくない、山と森を保全し再生したいと願っています。小倉・大垣市長は「ダムが大垣市にとって計り知れない恩恵をもたらすから」金を出すと言います。私たちは「ダムは川と流域とその住民に計り知れないダメージを与えるから、“ダム”にまつわる補助金やら協力金に頼らなくて済むような水源地の自立と活性化を」と言います。“道の駅”では、藤橋村の住民の生活を豊かにすることはできません。山と森を守ることにつながりません。私たちの税金は納得できる使い方をしてほしいものです。

徳山ダムめぐる水源地活性化

協力金名目で 123億円要求

岐阜県藤橋村

水資源開発公団などに

村予算の6倍相当

大垣市が800万円

村長「理由あるようでない」

大垣の水があぶない！

徳山ダムができれば、大垣の水道は 地下水をやめて、ダムの水になる

大垣市の水道水は現在、地下水でまかなわれています。「大垣市の水がおいしい」と言われるのはそのためです。ところが、揖斐川上流に計画されている徳山ダムが完成したら、この地下水を使うのをやめて、揖斐川の表流水から取らなければならない、というのです。

(1) **とても高い水道料金**になります。徳山ダム建設に伴う「水利権」として水を買わされる分の**126億円**が、大垣市と周辺13町にかかってきます。これを水道会計から出していかなくてもなりません。さらに、表流水を使うことになると、浄水場などの設備投資が要ります。どう考えても、水道料金を大幅値上げしなければやっていけません。

(2) **とてもまずい水**になります。地下水より汚染の可能性の強い水を使うのですから、消毒をきつく行うことになります。当然まずいものになります。

(3) **危険な水**になります。最上流部にダムを作ることで、揖斐川の水は不健康なものになります。さらに揖斐川と根尾川の合流点にはゴミ焼却場があります。大垣市近くを流れる揖斐川の水には、全国のゴミ焼却場で問題になっている猛毒のダイオキシン汚染の可能性があります。

(4) **断水のおそれ**が生じます。3年前、全国を襲った異常渇水・水不足のときも、この地域では断水騒ぎなどはありませんでした。しかしこの年、揖斐川の表流水は一時期、全くというほどなくなっています。現在の水源を大切に使う（地下水は使い過ぎてはいけません）のと、揖斐川の表流水に頼ると、どちらが断水の危険が大きいかは明らかです。

大垣市長も市議会も「水道料金はどうなるか」を試算しようともせずに「徳山ダムが出来れば、水源転換をする」ことに賛成しています。バブルが崩壊し、日本経済が根本的に変化しているのに、「40年前から徳山ダムは作ることにしている」という理由だけで、計画は進んでいます。おかしいとは思いませんか。